

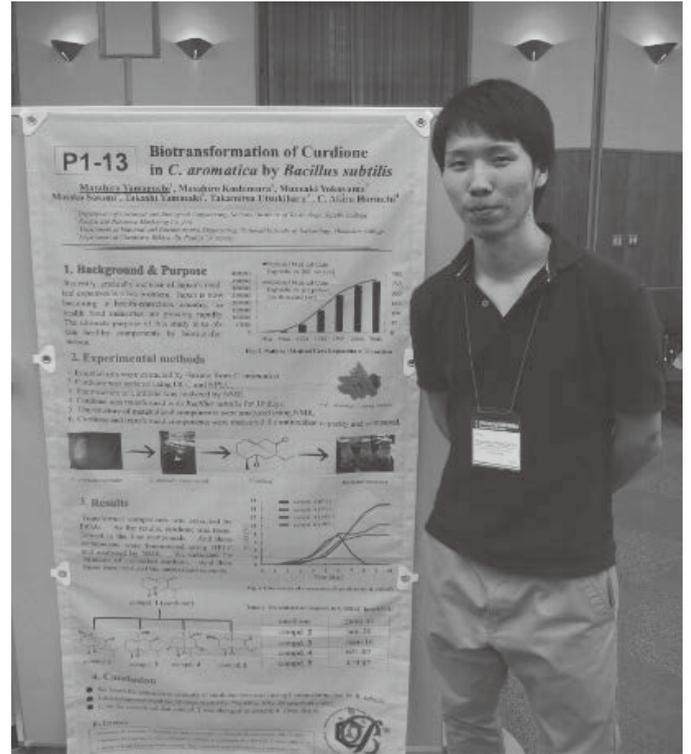
【専攻科生の研究発表支援の報告】

徳島県・徳島文理大学にて(2015年8月30日～9月2日)

専攻科2年 山口将大

微生物変換とは、有機反応では起こり得ない反応が生じたり、低活性の化合物の活性向上や、新たな活性付与が起こるなど、医薬・化学品などにも用いられる技術です。今回は、この技術を用いた「ウコン由来成分の変換」の研究にて一定の成果が得られたため、同窓会の皆様の援助のもと、国際学会に参加いたしました。英語での一方的な説明は、練習すれば簡単ですが、聴衆からの質問に関しては検討もしない内容が飛んできます。分からない単語が出てきたり、聞き取れなかったりと大変でしたが、この経験は今しかできないと思い、積極的にディスカッションを行いました。

高専生は英語力が不足しているによく指摘を受けるようですが、今年度は私を含め国際学会に3名が参加するなど専攻科の英語力や研究レベルは年々上昇傾向にあります。これから佐世保高専の名を「世界」に広めるためにも、より高度な研究を押し進め、より多くの場で発表を行っていくべきだと思います。そのためにも、同窓会の皆様からのご支援は不可欠です。ぜひ今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



【平成27年全国高専大会バドミントン競技に参加して】

バドミントン部 機械工学科5年 森山 慎吾

私は8月に佐世保市で行われた全国高専大会バドミントン競技に出場し、シングルスで3位入賞することが出来ました。

九州高専大会では良い結果を残すことが出来ず、今回、開催地枠で全国高専大会に出場しました。全国高専大会に出場するのは初めてで、他の地区で勝ち上がって来た選手のレベルの高いプレーを見て、緊張しながらもワクワクしていました。

1回戦は開催地枠ということもあり、昨年度の全国高専大会で団体・シングルス・ダブルスで入賞した第1シードで、優勝候補の石川高専の選手と当たりました。相手は強敵でしたが、負けることは考えず勝つことだけを考えて精一杯頑張りました。

その結果、フルセットの末2-1で勝利することが出来ました。勢いに乗り、準々決勝も秋田高専の選手に2-1で勝利しました。

準決勝は北九州高専の選手に1-2敗れたものの、バドミントン部では久しぶりの全国入賞を果たすことが出来ました。

私は今まで九州高専大会ですら3位入賞することが出来ませんでした。しかし、1年生の時からほとんど休まず部活に行き、3年生からは部長を務め練習メニューも自分に厳しくして実行してきました。その努力が全国高専大会で報われたのかなと思います。



4月から社会人となりますが、部活を通して学んだことはとても役に立つと思います。私はその学んだことを存分に発揮して、卒業しても活躍していきたいです。

今回の大会に参加するに際して、同窓会の皆様よりいただいたご支援をとっても心強く思いました。本当にありがとうございました。